Express5800/CS500g

はじめにお読みください

Empowered by Innovation NEC

# Startup Guide

スタートアップガイド

**箱を開けてから本装置の初期設定を完了するまでの手順を説明します。このスタートアップガイドに従って作業してください。**

855-910876-387-01　2010年5月　第2版

## ⚠ 安全に関するご注意

**装置をセットアップする前に「ユーザーズガイド」の「使用上のご注意　-必ずお読みください-」をお読みの上、注意事項を守って正しくセットアップしてください。**

### ⚠ 警　告

- ぬれた手で電源プラグの抜き差しをしないでください。感電するおそれがあります。
- 内蔵型オプションの取り付け・取り外しは電源コードをコンセントから抜いて行ってください。
- 雷が鳴り出したらケーブル類を含め装置に触らないでください。落雷による感電のおそれがあります。
- 「ユーザーズガイド」に記載されている内容を除き、分解・修理・改造を行わないでください。

### ⚠ 注　意

- 持ち運びの際は2人以上で装置の底面をしっかりと持って運んでください。
- 水、湿気、ほこり、油、煙の多い場所、また直射日光の当たる場所に設置しないでください。
- 装置に添付されている電源コード以外を使用しないでください。
- 電源コードは指定の電圧、アース付のコンセントに接続してください。
- 電源コードはタコ足配線にしないでください。

## 1 添付品を確認する

**梱包箱を開け、添付品がそろっていることを確認してください。**

- 本体
- 電源コード×1
- フロントベゼル
- セキュリティキー（フロントベゼルに貼り付けられています）
- お客様登録申込書
- ソフトウェアパッケージ一式（バックアップDVD-ROM*1を含む）
- EXPRESSBUILDER DVD*2
- 保証書（本体梱包箱に貼り付けられています）
- 使用上のご注意
- スタートアップガイド（本書）
- スライドレール（アウターレール）取り外し工具

**重要**　添付のバックアップDVD-ROMおよびインストール/初期導入設定用ディスクは、再セットアップの時に必要となりますので大切に保管しておいてください。

*1 バックアップDVD-ROMの中には「ユーザーズガイド」や各種オンラインドキュメントも格納されています。ユーザーズガイドやオンラインドキュメントはAdobe Readerで閲覧できるPDFファイルです。

*2 EXPRESSBUILDER DVDの内容についてはEXPRESSBUILDER内の添付品一覧を参照してください。

## 2 ユーザーズガイドを読む

**ユーザーズガイドはバックアップDVD-ROMの中に格納されています。ユーザーズガイドはAdobe Acrobat Readerで閲覧できるPDFファイルで、HTMLファイルから表示させることができます。**

**<バックアップDVD-ROM>:/nec/doc/manual.html**

ユーザーズガイドでは、本装置を安全に取り扱うための注意事項や*Startup Guide*では記載されていないセットアップに関する詳細な説明、運用やアップグレードに関する説明が記載されています。また、「故障かな？」と思ったときのトラブル回避の手段やサービスに関する情報も記載されています。本装置を取り扱う前にぜひお読みください。

**ヒント**　PDFファイルを閲覧するためには、Adobe 日本語版が必要です。Adobe Readerはアドビ社のWebサイトから無償でダウンロードすることができます（http://www.adobe.co.jp）。

ユーザーズガイドは、NECのWebサイトからダウンロードすることができます（http://support.express.nec.co.jp/pcserver/　→　［製品マニュアル（ユーザーズガイド）］をクリックしてください）。

## 3 ラックを設置する

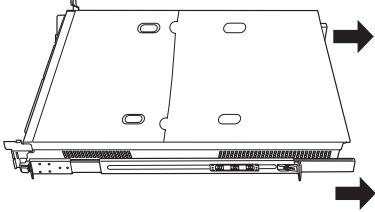
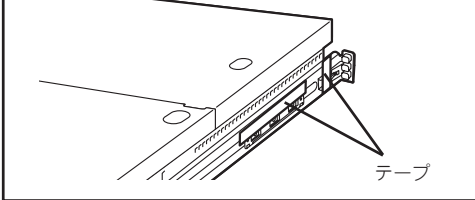
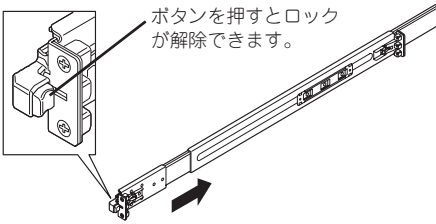
**本体はEIA規格に適合した19型（インチ）ラックか、卓上に設置して使用します。ラックに設置する場合は、次の条件を守ってラックを設置してください。**

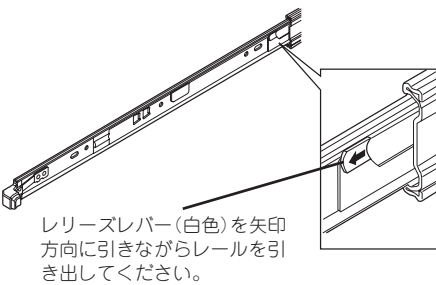
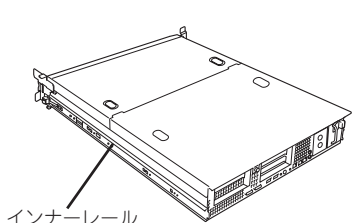
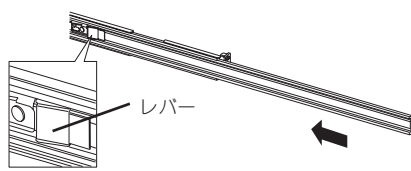
**重要**　ラックの設置は必ず複数名で行ってください。

## 4 本体を取り付ける

**本体をラックに取り付けます。ユーザーズガイド（ハードウェア編）の2章を参照してください。**

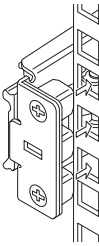
**重要**　ラックの設置や本体の取り付けは必ず複数名で行ってください。

1 本体左右に取り付けられているスライド式のレールを取り外す。

装置運搬時の脱落防止のために、工場出荷時にスライドレールは左右ともに背面側と側面がテープで固定されています。ラックへ取り付ける前に、テープをはがしてください。

2 本体前面にあるロック解除ボタンを押しながら、レールを持ってゆっくりと装置後方へスライドさせる。

しばらくすると、「カチッ」とロックされます。本体側面にあるレリーズレバー（白色）を矢印の方向に引き、ロックを解除しながら本体から取り外す。

レリーズレバー（白色）を矢印方向に引きながらレールを引き出してください。

レールアセンブリを取り外すと、本体にはネジで固定されたインナーレールのみが付いた状態となります。

取り外したレールアセンブリは、レバーを押しながら矢印方向へ動かし、もとに戻してください。

レールアセンブリは、取り外したインナーレールに再度取り付けます。どちら側のインナーレールから取り外したものかわかるように印を付けるなどして区別してください。複数の本装置を設置する際もどの装置のどちら側のインナーレールから取り外したものがわかるように区別してください。

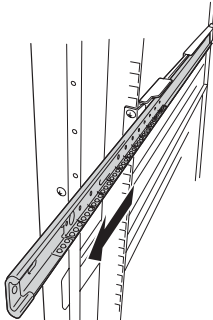
レバーやレールで指を挟まないよう十分注意してください。

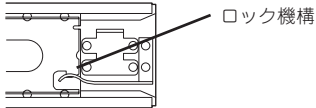
3 レールアセンブリの四角い突起を、19インチラックの角穴に入れて取り付ける。

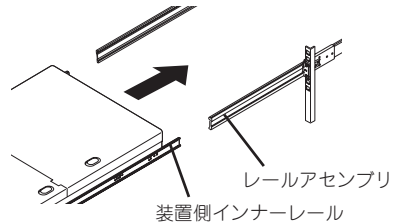
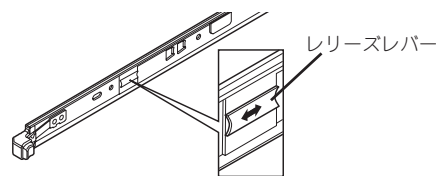
この時に「カチッ」と音がして、ロックされたことを確認してください。

上図は右側（前面）を示していますが、右側（背面）、左側（前面/背面）も同様に取り付けてください。もう一方のレールを取り付ける時、すでに取り付けているレールアセンブリと同じ高さに取り付けることを確認してください。

前後に多少のガタツキがありますが、製品に支障はありません。

レールアセンブリが確実にロックされて脱落しないことを確認してください。

4 左右のレールアセンブリのスライドレールをロックされるまで引き出す。

ロック機構が確実にロックしている事を確認してください。

ロック機構

5 2人以上で本装置をしっかりと持ってラックへ取り付ける。

本装置側面のインナーレールをラックに取り付けたレールアセンブリに確実に差し込んでからゆっくりと静かに押し込みます。

途中で本装置がロックされたら、側面にあるレリーズレバー（青色のレバーが左右にあります）を手前または、奥に押しながらゆっくりと押し込みます。

完全に装置を押し込むと装置前面のロックがかかり装置を固定できます。

レバーやレールで指を挟まないよう十分注意してください。

差し込む時、インナーレールの両側をまっすぐ挿入してください。

設置時は、左右のツマミを持ってゆっくりと確認しながら取り付けてください。

初めての取り付けでは各機構部品がなじんでいないため押し込むときに強い摩擦を感じることがありますが、製品に支障はありません。

差し込みが不完全ですと、片側のレールが押し込み時に途中で止まることがあります。その場合一度装置をロックがかかるまで完全に手前に引き出してください。左右のロックが完全にかかったのを確認してから、その後左右のロックを解除させて再び装置を押し込んでください。

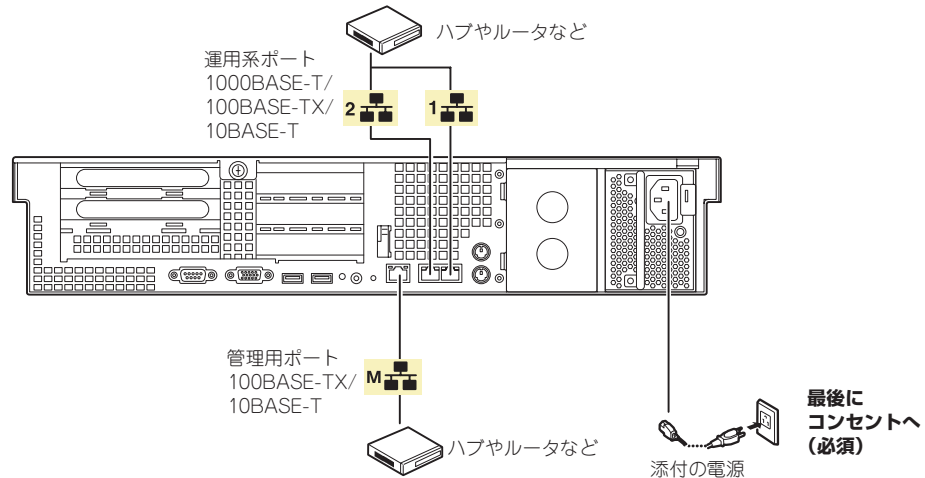
6 本装置を何度かラックから引き出したり、押し込んだりしてスライドの動作に問題がないことを確認する。

ラック内の他装置と隣接する位置に本装置を取り付ける際は、他装置と本装置の筐体が干渉していないことを確認してください。もし干渉している場合は、他装置と干渉しないよう調整してレールアセンブリを取り付け直してください。

スライドレール部分の動作を確認してください。スライドレールがラックのフレームに当たり、引き出せない場合は、スライドレールを取り付け直してください。

以上で完了です。

## 5 ケーブルを接続する

**本体背面にLANケーブルを接続した後、添付の電源コードを接続します。ユーザーズガイド（ハードウェア編）の2章を参照してください。**

**重要**　システムが割り振るLANポート番号（eth n・n=数字）は次のとおりです。

オプションのNICなし
- eth0: 1
- eth1: 2

オプションのNICあり
- eth0: 1
- eth1: 2
- eth2: オプションのNIC A
- eth3: オプションのNIC B

また、デフォルトで通信用インタフェースとして割り当てられているポートは、eth0です（設定は初期セットアップの完了後、Management Consoleから変更することができます）。

*引き続きシステムのセットアップをします。裏面をご覧ください。*

# 6 CS500gをセットアップする

**本装置をプロキシサーバとして起動させるために最小限必要となる環境を構築します。WindowsクライアントPC(WindowsXP 以降が動作する環境)を用意してください。詳しくは、ユーザーズガイド(ソフトウェア編)の3章「初期インストール」を参照してください。**

1 クライアントPCと本装置を準備する

本装置が提供するWebインタフェースによる初期導入設定を行うため、本装置と同じネットワークのＩＰアドレス(例えば、192.168.250.1/255.255.255.0)を設定したWindowsクライアントPC(以下、クライアントPCと記述します)を用意してください。

メモ：本装置の初期状態のネットワーク設定は以下のとおりです

LANポート番号　：eth0
IPアドレス　：192.168.250.250
ネットワークマスク：255.255.255.0
ホスト名　：intersec.domain.local

・ハブ環境を介して接続する

ハブに本装置とクライアントPCをそれぞれストレートケーブルで接続します。

注意：本装置とクライアントPC以外の機器は接続しないでください。

・本装置に直結する

本装置とクライアントPCをクロスケーブルで接続します。

2 クライアントPCと本装置を起動する

本装置とクライアントPCをLAN ケーブルで接続した後、電源を入れてください。本装置の起動後、背面の「LINK」ランプが点灯しているか確認してください。
起動後、クライアントPCのコマンドプロンプトからping コマンドなどを使用して通信状態を確認してください。

［実行例］
C:¥> ping *192.168.250.250*(■)
(■)斜体部分は、本装置のIPアドレスです。

本装置と通信できない場合は、クライアントPCのネットワーク設定やLANケーブルの接続などを確認してください。

3 本装置の初期導入設定ManagementConsoleに接続する

クライアントPCのInternet Explorerから以下のURL を指定して、本装置のManagementConsoleに接続してください。

http://192.168.250.250:50453/

正常に接続されると「Management Console」のログイン画面が表示されます。

ユーザ名、パスワード入力画面が表示されます。

"ユーザ名(U)"、"パスワード(P)"に以下を入力して、[OK]をクリックしてください。

ユーザ名(U)：root
パスワード(P)：システム管理者パスワード(*)

システム管理者のパスワードは、『管理者用パスワード』に記載されている「出荷時の管理者用パスワード」を入力してください。

4 初期導入設定を実行する

1　初期導入を開始する

ログインが成功すると以下の画面が表示されます。[開始]を押下し、初期導入を実施します。作業を中断したい場合は、[中止]を押下してください。

2　システム管理者を設定する

ここでは、システム管理者に関する設定を行います。システム管理者のアカウントは "admin"(固定)です。システム管理者用のパスワードを「パスワード」「パスワード再入力」に入力して[次へ]をクリックしてください。

システム管理者名のパスワードの指定は必須です。

メモ：システム管理者のアカウントは、セットアップ完了後システム管理者ManagementConsole画面で変更できます。

3　ネットワーク情報を設定する

お客様の運用ネットワークに合わせたネットワーク情報の設定を行います。

「ホスト名(FQDN)」、「IPアドレス」、「サブネットマスク」、「デフォルトゲートウェイ」、「プライマリネームサーバ」、「セカンダリネームサーバ」に設定内容を入力し、[次へ(N)]をクリックしてください。

| 項目名 | 設定内容 |
|---|---|
| *ホスト名 | 本装置のFQDNを設定します |
| *IPアドレス | 本装置のIPアドレスを設定します |
| *サブネットマスク | ネットワークマスクを設定します |
| デフォルトゲートウェイ | デフォルトゲートウェイを設定します |
| *プライマリネームサーバ | プライマリネームサーバを設定します |
| セカンダリネームサーバ | セカンダリネームサーバを設定します |

※項目名の先頭に"*"があるものは必須入力です

**重要　初期導入時にプライマリネームサーバを含む必須項目を入力せず設定を進めた場合、本体はシャットダウンしシステムは停止したままとなります。改めて本体を起動後、再度セットアップを実施してください。**

4　InterSec/CSのログ領域を設定する

本装置のログ領域の設定をおこないます。ログ(システムログ、キャッシュサーバのアクセスログなど)の記録用として使用するハードディスク領域のサイズを指定してください。
残りのディスク領域がキャッシュ領域として使用されます。
設定を終了後、[次へ]をクリックしてください。

前項までの初期設定内容を表示します。
設定内容に間違いがないか確認してください。
表示した設定内容でよければ[次へ]をクリックしてください。
設定内容を変更する場合は[前へ]をクリックしてください。

初期導入設定が完了すると、システムの再起動画面を表示します。
続けてシステムの運用設定を行う場合は[システムを再起動する]をクリックしてください。
システムを停止する場合は[システムを停止する]をクリックしてください。
※CS500gは、初期設定が完了するまでマシンが2度再起動します。

# 7 システムにログインして、各種設定を実行する

**初期セットアップ完了後は必ずManagement Consoleに接続してシステムの初期化完了を確認してください。完了後、本装置の詳細な設定や管理は、管理コンソール「ManagementConsole」画面で行います。**

1 管理クライアントのWebブラウザから以下のURLに接続する

クライアントPC上でWebブラウザ(Webブラウザは、Microsoft Internet Explorer 6.0 SP2以上)を起動します。
Webブラウザの設定では、プロキシを経由しないで接続してください。

https：//本装置に割り当てたFQDN：50453/

または

https：//本装置に割り当てたIPアドレス：50453/

注意：URLに本装置のFQDNを指定する場合は、管理クライアントで名前解決ができることが必要です。

2 管理コンソールにログインする

前述のURLにアクセスすると「セキュリティの警告」画面が表示されますが、問題はありませんので、続行してください。

InternetExplorer6の場合

InternetExplorer7の場合

管理コンソールのログイン画面が表示されます。"システム管理者ログイン" をクリックしてください。

ユーザ名、パスワード入力画面が表示されます。"ユーザ名(U)"、"パスワード(P)"に以下を入力して、[OK]をクリックしてください。

ユーザ名(U)　：admint

パスワード(P)　：システム管理者パスワード(*)

(*)6[4]-2で設定したパスワードです。

Ｗｅｂブラウザに表示された画面から各種システムの設定ができます。詳しくは、ユーザーズガイド(ソフトウェア編)の4章を参照してください。

# 8 ESMPRO/ServerAgentの設定をする

**本体の状態を監視するソフトウェアESMPRO/ServerAgent」がインストール済みです。ファンやマザーボード、ハードディスクドライブ、本体の温度などを監視するこのソフトウェアの設定(しきい値やイベント通知先)を行います。**

詳しくは、バックアップDVDに格納されている「ESMPRO/ServerAgent ユーザーズガイド」を参照してください。

<バックアップDVD>:/nec/doc/500/esmpro.sa/esmsa_users.pdf

接続に使用するクライアントマシンによっては、罫線が文字化けすることがありますが、それぞれの機能は問題なく動作します。

# 9 管理コンピュータのセットアップをする

**本体をネットワーク上から管理、保守するソフトウェアを管理コンピュータにインストールします。ソフトウェアは、本体に添付の「EXPRESS BUILDER DVD」に含まれています。**
**管理コンピュータのDVDドライブに「EXPRESS BUILDER DVD」をセットすると表示される「オートランで起動するメニュー」からそれぞれインストールすることができます。**
**詳しくはユーザーズガイド(ハードウェア編)の3章を参照してください。**

重要　バックアップDVDをPC等に挿入したまま、再起動するとインストール処理が実行されます。利用後は必ず取り出してください。

**以上で完了です。**